

笑顔いっぱい!! 世代を超えた感動のひととき 元気はつらつコンサートが開催

REPORT 1

ヒューマンソンググループ「ザ・わたしたち」による元気はつらつコンサートが3月5日、高野町上高公民館で開催され、子どもからお年寄りまでの約120人が参加しました。

コンサートでは、影絵などさまざまな演出が行われ、参加者も一緒に歌ったり踊ったり会場が一つになって盛り上がりました。

また、高野里山クラブの企画で、「高野民謡」の発表や「高野民話(狼塚)」の朗読が行われたほか、高野産の米粉を使った団子などが入った「春まち団子汁」が販売されました。この日の朝はマイナス6℃まで冷え込んだこともあり、参加者は「コンサートや団子汁で身も心も温まった」と笑顔が広がりました。



▲会場がひとつに

カープ日南キャンプに庄原焼き登場! 庄原市カープ応援隊が激励訪問

REPORT 4

庄原市カープ応援隊の訪問団8人が2月17日、カープのキャンプ地、宮崎県日南市の天福球場を訪れました。

到着した訪問団は早速、野村謙二郎監督のもとを訪ね、今シーズンの奮闘をお願いし、庄原自慢のお菓子を手渡しました。また、ご当地グルメ「庄原焼き」を味わってもらおうと食堂の一角にブースを構え、おそろいのエプロンと庄原焼きTシャツに身を包み、振る舞



▲広島焼に挑戦する前田健太選手



▲野村監督におみやげを手渡し高橋副市長(中央)

いました。庄原焼きは好評で、選手たちは「ボン酢にはビックリしたけど以外とおいしい」と話し、次々とほお張っていました。

練習中の選手の熱気に直接触れた訪問団は、今年のスローガン「逆襲」への手応えを十分に感じたようです。今年こそ悲願の優勝を勝ち取れるよう、熱い声援を今年も届けていきましょう。

地域が元気になる種をまこう 元気なSHOBARAを考える講演会

 REPORT 3

しょうばら産学官連携推進機構と社団法人庄原法人会青年部会が主催する「元気なSHOBARAを考える講演会」が3月11日、かんぼの郷庄原で開催されました。

2回目となる今回は、NPO法人吉備野工房ちみち理事長の加藤せい子さんが「地域が元気になるタネをまこう!」と題し講演。

市内外から来場した34人は、加藤さんが実践した地域資源を活用したブランドの確立や地域住民を巻き込んだ取り組み、地域が元気になる方法などを真剣な

表情で聴いていました。

加藤さんは「地域を元気にするには、仕事としてだけではなく1個人として地域に関わっていく必要もある。そういった人材を育てることがとても大切」と力を込め話していました。



▲加藤さんがユーモアを交えて講演

児童が安全に通学できるよう願いを込めて 社団法人庄原法人会が傘とステッカーを寄贈

 REPORT 2



▲児童用傘の寄贈目録を辰川教育長に手渡す三宅会長(左)

ことし設立20周年を迎えた社団法人庄原法人会は、その記念事業の一環として、児童用傘を市教育委員会に、寄贈しました。

3月7日に市役所を訪れた三宅康文会長と中村勅専務理事は、次代の庄原を担う市内の小中学校児童が安全に通学できるようにとの願いを込め、児童用傘125本の目録を教育長に手渡しました。

三宅会長は「地域の宝である子どもたちが、安全に登下校できるよう役立てて欲しい」と話していました。

また、3月22日には、同会の青年部会(西田学部長)が庄原市PTA連合会に対して、庄原警察署と連名で作製した「子ども110番」ステッカー1,400枚(貼付用ボード250枚を含む)を寄贈。

教育委員会を通じて各小学校へ配布されました。

寄贈された傘・ステッカーは、市内の各小学校で有効に活用されます。



▲子ども110番ステッカーと貼付用ボード

身近な歴史を学ぶ 地域アカデミー講座が開催

 REPORT 5

山内自治振興区や広島大学大学院歴史文化学講座などが主催する地域アカデミー講座が3月21日、山内自治振興センターで開催されました。

「庄原地域の戦国・江戸時代を考える」をテーマに、広島大学大学院歴史文化学講座の本多博之准教授と中山富廣教授が、戦国・江戸時代の庄原の姿を人々の様子や暮らしに焦点を当てながら解説。会場を訪れた約70人は、熱心に耳を傾けました。

参加者は「自分たちが暮らす地域に、愛着と歴史への強い関心を持っている。特定の地域にスポットを当てた講演というのはとても貴重な機会になった」と話していました。



▲興味深く聴く参加者

里山に春の訪れ 節分草祭が開催

REPORT 6

総領町の道の駅リストア・ステーションで3月6日、節分草祭が開催されました。

自治会や地域団体のさまざまな出店が並ぶ会場には、市内外から約5,000人が訪れ、大いに賑わいました。

今年は、1月の寒波の影響で節分草の開花が2週間程度遅れましたが、当日までには数カ所の節分草自生地が満開になりました。

この日は、節分草の観察会や節分草俳句会も行われ、多くの人に参加。観察会では、節分草保存会の桑田健吾さん(三良坂町)から節分草の生態を道の駅リストア・ステーションで学んだ後、2カ所の自生地を散

策しました。

参加者は、周辺の山野草の説明を聴いたり多くの山野草を観察したりしながら総領町の自然を満喫していました。



▲多くのひとでにぎわう会場

話題の作品を身近で楽しむ 口和自治振興区が映画鑑賞会

REPORT 7

口和自治振興区主催の映画鑑賞会が2月25日、ヒューマンライツで開催されました。

この鑑賞会は、映画を観る機会を求める区民の声に応え、より多くの映画に触れてもらおうと口和自治振興区が毎年開催しています。今年は、昼と夜の2回に分けて開催。昼の部は「カールじいさんの空飛ぶ家」、夜の部では「武士の家計簿」、いずれも要望の高かった2作品が上映されました。

昼の部は、口北小学校の児童など約100人が鑑賞。この映画を初めて見た児童は「おもしろかった」「もう一度見たい」と喜んでいました。夜の部にも多くの観

衆が集まり、話題作に見入っていました。

口和自治振興区事務局長の山岡芳晴さんは「各自治会の協力をいただきながら、毎年多くの皆さんに来ていただいている。地域からの要望がある限り続けていきたい」と話していました。



▲作品に夢中になる児童たち

地域の人と楽しいひととき 比和保育所でひなまつりコンサートが開催

REPORT 8



▲コンサートの様子

比和保育所で3月3日、世代間交流の一環として、音楽家きくちレイコさんによる「ひなまつりコンサート」が開催されました。

園児たちは、おじいさんやおばあさん、地域の人たちと一緒にきく

ちさんの演奏を楽しんだり、伴奏に合わせて一緒に歌ったりして交流を深めました。

コンサートできくちさんは、「おひなさま やさしい人形 大切に」など年中・年長児が作った俳句3首に1首ずつメロディーを付けてその場で披露。園児たちは、俳句が歌になったことに驚いた様子でした。「アンパンマン」「春がきた」など知っている曲が始まるとうれしそうに元気よく歌っていました。また、おばあさん手作りの「ほとぎ」や「かきもち」もみんなで味わいました。

参加者の皆さんは「楽しかった」「子どものころに戻ったみたい」と話していました。

子どもとふれあいながら楽しく運動 西城温水プール「水夢」親子体操教室

 REPORT 9

西城温水プール水夢では、1月から3月にかけて連続5回の親子体操教室を開催し、西城地域内外の2歳から小学校就学前の子どもと保護者11組が参加し



▲マットを使って運動を楽しむ親子

ました。

まずは、軽快な音楽に合わせてスタジオを走り回り、お互いの体を使ってストレッチ。その後、簡易マットを使った前転やブリッジ、「魔法のじゅうたん」や「ぐるぐる巻き寿司」といった運動にみんな歓声を上げていました。

平均台を使った身体のバランスをとる運動では、最初はお母さんと手をつないで平均台を渡っていた子どもも、インストラクターのやさしく的確な指導でたちまち上達。「お母さん、一人で渡れたよ」「じょうずにできたね」と親子で楽しみながら心地よい汗を流していました。

温水プール水夢は、フィットネススタジオや先進的なトレーニング機器も備えた総合屋内運動施設です。子どもの身体能力を伸ばす教室、大人の健康維持や体力アップ、ダイエットなどに役立つ教室などを実施しています。ぜひ利用してみてくださいはいかがでしょうか？

園児たちの表情キラリ 小奴可・東城保育所で春の行事

 REPORT 10

小奴可保育所の園児が2月10日、「長巻き寿司作り」に挑戦しました。

園児たち58人は、保育所の一番大きな部屋で横一列になり一斉に作業を開始。最も緊張する巻く作業では「いち！」「に！」「さん！」と声を合わせながら、少しずつ慎重に巻いていきました。約40分かけて13巻の巻き寿司が見事に完成。その出来栄えに園児たちは「すごいね」「長いね」と喜んでいました。

東城保育所では3月3日、毎年恒例の「ひなまつり



▲園児が巻き寿司を作る様子(小奴可保育所)



▲真剣な表情でお茶を点てる園児(東城保育所)

お茶会」が行われました。

袴・着物姿の年長児41人が、地域の方をおもてなし。普段は活発な園児たちが、おしとやかに振る舞いながら「お茶をどうぞ」「お菓子をどうぞ」とお手前を披露していました。

園児たちが点てたお茶を飲んだ地域の皆さんは「一生懸命さが伝わってきたよ」「目が輝いていたよ」と声をかけていました。